博物館におけるバーチャルツアー開催の現状
～一都三県の登録博物館･指定施設を対象としたアンケート調査から～

専修大学文学部
○ 石渡桃夏， 野口武悟
lm201072@senshu-u.jp takenori@iscsenshu-u.ac.jp

1

研究背景

1 新型コロナウイルス感染症による博物館活動への影響

2020年初頭より感染が拡大した新型コロナウイルス感染症

2020年2月26日
文部科学省は感染拡大を防ぐため、博物館や美術館、劇場の閉鎖を要請

その後、緊急事態宣言発令により、
多くの博物館が臨時休館の対応を余儀なくされた

2

２ コロナ禍によるインターネット利用の増加

2020年4月の緊急事態宣言を受け、人々の自宅で過ごす時間が長くなった

↓

インターネット利用頻度、利用時間 → 増加

3

３ バーチャルツアーとは

インターネット上で利用者が自由に場所や視点を変えて閲覧できるVR技術を用いたコンテンツ（サービス）のこと

実際に足を運ばなくても、展示物を鑑賞することができるため、臨時休館中の対策としても有用

4

バーチャルツアーを開催することで、具体的な来館イメージを利用者に届けることができ、人々の現地への訪問行動を促すことが示唆

↕

一方、バーチャルツアーでの体験が実際の訪問行動を抑制する可能性があることを示唆する研究も少なくない

5

研究目的

アンケートを通じて、
博物館におけるバーチャルツアー開催の有無などの現状を明らかにする

博物館側から認識しているバーチャルツアー開催による影響や考えについて調査し、バーチャルツアーのメリットやデメリット、今後のあり方について考察

6

研究方法

東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県（一都三県）の登録博物館及び指定施設250館を対象として、郵送でのアンケートを実施

調査時期：2023年9月1日から同月29日

7

研究結果

アンケートは250館中172館からの返送
回収率は68.8%

バーチャルツアーを開催している博物館・・・・・18館
バーチャルツアーを開催していない博物館・・・154館

8

1 バーチャルツアーを開催している博物館（18館）の結果

【博物館の種類】

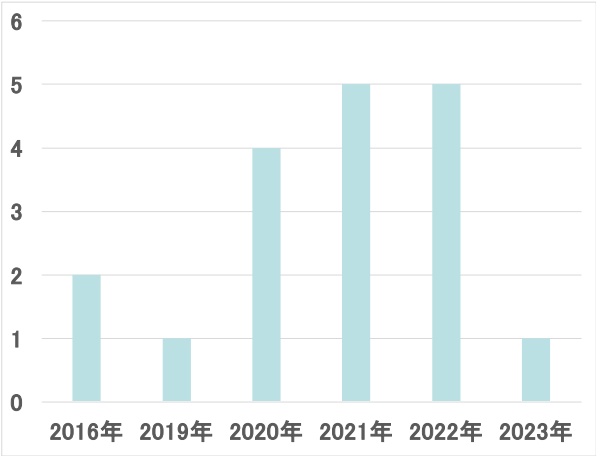
総合博物館　1館
歴史博物館　10館
美術博物館　4館
科学博物館　2館
野外博物館　1館

【博物館の設置種別】

国立博物館（独立行政法人）　0館
公立博物館　9館
私立博物館　9館

9

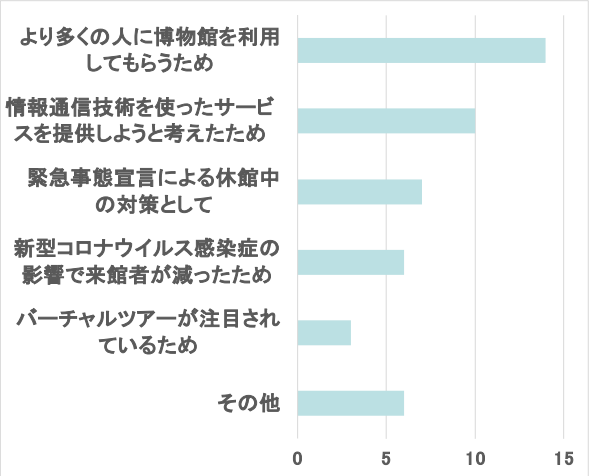
【バーチャルツアーを開始した年】



新型コロナウイルス感染症の感染拡大の始まった2020年以降にバーチャルツアーを開始した博物館が多い

10

【バーチャルツアーを開催している理由】
（複数回答可）

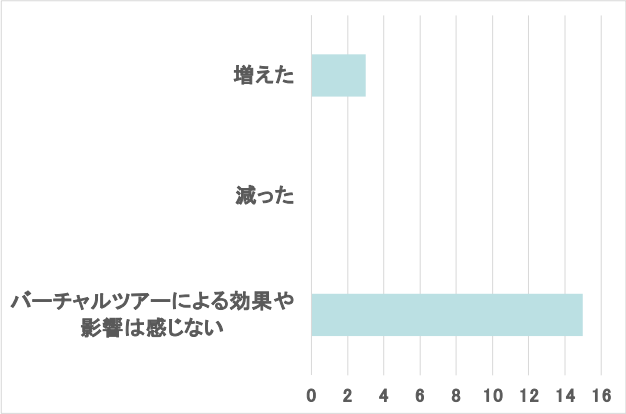


＜その他の意見＞

- 庁内のデジタル化推進事業の一環として
- 補助金制度の活用
- 展示記録の公開アーカイブとして
- 連携館等からの依頼のため
- 施設の家主である会社の新規事業販促事例としてのトライアルで

11

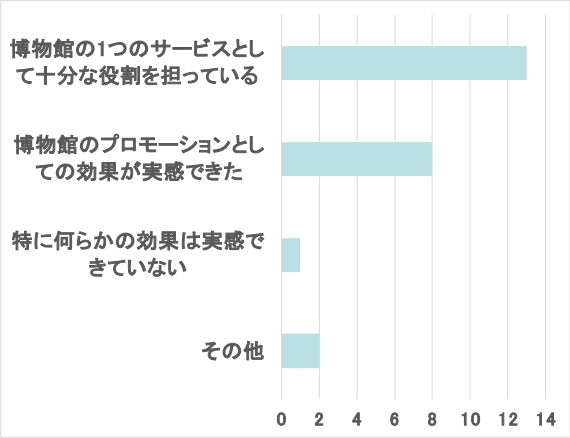
【バーチャルツアー開催による実際の来館者数の変化】



「バーチャルツアーによる効果や影響は感じない」と回答した博物館が18館中15館

12

【バーチャルツアーに対する考え】
（複数回答可）

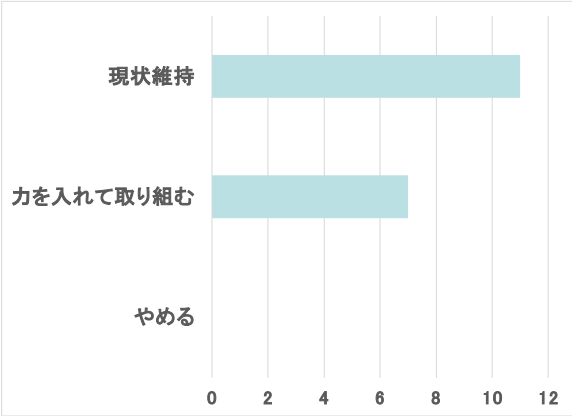


＜その他の意見＞

- コンテンツが少ないため、効果を実感する程ではないが、資料のアーカイブ化とあわせて充実させていく予定
- 興味を持つ子供たちの期待に応え、直接アピールできる

13

【今後のバーチャルツアー提供への取り組み方】



「現状維持」 が18館中11館。
バーチャルツアーを開催することに否定的ではない

14

【バーチャルツアーを開催している博物館の考えるメリットとデメリット】

＜メリット＞

- 展示室の外からでも展示中の資料情報にアクセスできる。
- 過去に開催した企画展も見ることができる。
- 展示室の見学に比べ、人数制限や時間に制約がないため、学生にとっては利用しやすいと考えられる。（大学博物館）
- 出前授業など、学校教育との連携に活用できている。

＜デメリット＞

- 一般の方の利用状況（利用目的、利用方法等）の把握は難しい。
- 好意的な意見を聞く機会はあるが、効果測定ができていない。
- サービスとしてのバーチャルツアー（VRコンテンツ制作・活用）をいかに一過性のものではなく継続的に活用できるようにしていくかはまだいろいろな面で課題がある。

15

2 バーチャルツアーを開催していない博物館（154館）の結果

【博物館の種類】

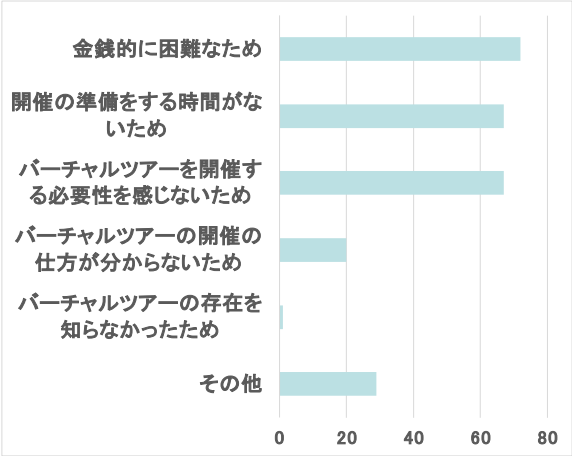
総合博物館　24館
歴史博物館　59館
美術博物館　55館
科学博物館　12館
動物園　1館
水族館　1館
植物園　1館
野外博物館　1館

【博物館の設置種別】

国立博物館（独立行政法人）　5館
公立博物館　67館
私立博物館　82館

16

【バーチャルツアーを開催していない理由】

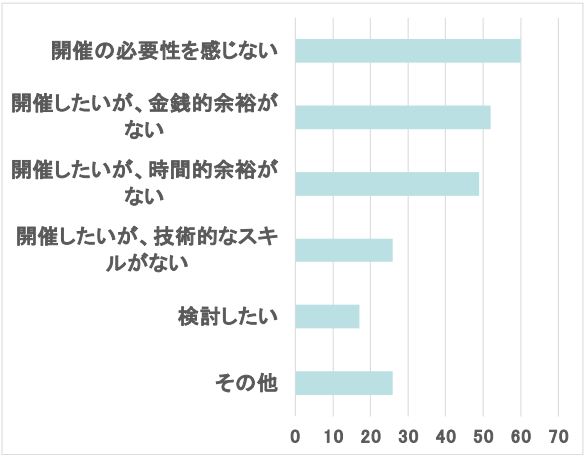


＜その他の意見＞

- 人手不足
- 展示のネタバレになる
- より優先順位の高い他の事業がある
- 機材の都合上、バーチャルツアーでは作品の特徴･魅力を伝えきれない
- 企画展示が主体であるため、その都度制作はハードルが高い
- 著作権等の問題があり難しい

17

【バーチャルツアーの今後の開催に対しての考え】



＜その他の意見＞

- 人的余裕がない
- 他の業務とのバランスを考えた上で検討したい
- 今後の懸案事項として、他館の例など情報収集していきたい
- 社会状況や博物館の取り巻く状況を見据えながら、必要に応じて検討する
- 他に優先しなければならない課題が多い

18

【バーチャルツアーを開催していない博物館の考えるメリットとデメリット】

＜メリット＞

- 過去展覧会のアーカイブとしての活用・記録としての役割は大きい。
- 様々な障害のため実際には来られない方のアクセシビリティを担保する。
- 博物館のコンテンツを広く周知する手段の一つである。

＜デメリット＞

- バーチャル空間では実際の作品鑑賞に代わることはできない。
- 今後につながる収益性の点で、館内でのバーチャルツアーの開催への理解を得るのは難しいと思われる。
- 施設の規模が小さいため、導入は難しい。
- 導入の労力に見合う効果が期待できないように思う。
- バーチャルツアーの開催が入館者の減少につながる懸念がある。

19

考察

1　博物館におけるバーチャルツアーの現状

・バーチャルツアーを開催している博物館の数は少ない
・2020年以降からバーチャルツアーを開始している博物館が多い

・デジタル活用、VR市場⇒ 近年急速に拡大

・バーチャルツアーの開催は、<u>より多くの人がその博物館を目にするための1つの手段</u>

20

２　バーチャルツアーの意識から見える役割

・アーカイブとして残せる
→常設展だけでなく、企画展をバーチャルツアーとしてインターネット上で見られる→展示期間が終了してからも過去の展示を振り返ることが可能。

・直接博物館へと訪れることが困難な人に役立つ
→遠方の人や障害のある人にインターネット上で利用してもらう機会の創出
→人数制限や時間の制約がなく、より多くの人が利用しやすい

21

３　バーチャルツアーの現状から見える課題

・バーチャルツアーの効果を感じにくい
→バーチャルツアーの及ぼす博物館への効果や影響の効果測定が難しい

バーチャルツアーは来館者を増やすためだけのものではなく、バーチャルツアーを利用してもらえること自体に価値がある

22

4　バーチャルツアーの今後のあり方

・何らかの理由で開催が難しい博物館
（例：費用、時間、人手不足など）
・バーチャルツアーに必要性を感じていない博物館も多い

↓

リアルでの来館を重要視

目に見える効果が期待できなければ、開催の必要性を感じず

23

＜今後に向けて必要なこと＞

・バーチャルツアーにはVR技術を活かした鑑賞体験を見出す
・VRではできない、現実の空間だからこそできる展示、企画はどういったものか考えていく

バーチャルツアーの良さを見出し、
リアルの博物館はただのアーカイブにならないよう
さらなる努力と工夫が現場に求められる

24

結論

- バーチャルツアーを開催している博物館の数は少ないが、今後「開催したい」と考えている博物館は一定数はある
- デジタルコンテンツを充実させることは、博物館の展示内容や魅力を具体的に利用者へと伝える手段の一つになる
- バーチャルツアーを開催することがどれほど影響を与えるのか、費用と労力に見合った効果が得られるのかが示されなければ、バーチャルツアーを開催する博物館のさらなる増加にはつながりにくい

25

バーチャルツアーは来館体験の代替とまではいかないが、インターネット上の一つのコンテンツとして、より多くの人が博物館を知り観覧する手段となり得ると考える

26